※令和４年度以降入学生用

学校番号	3021

令和８年度　商業科

教科	商業	科目	ソフトウェア活用	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	ソフトウェア活用　（実教出版）						
副教材等	はじめの第一歩 基礎からはじめる データサイエンス　（noa 出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

実社会におけるデータ活用事例をもとに，数学が苦手な文系生徒でも数理・データサイエンス・AI の基本を学習し，活用できる基礎知識を学びます。
AI，ビッグデータと共存する時代に「データサイエンス」を武器にするための基礎を学び，時代の流れに取り残されないために，今一歩踏み出す力を身に着けましょう。

2　学習の到達目標

商業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，企業活動におけるソフトウェア活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的･系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。
(2) 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
(3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び，企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けている。	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び，企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組んでいる。

上に示す観点に基づいて，学習のまとまりごとに評価し，学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し，評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	企業活動とソフトウェア活用	●身近な事例を基にビジネスにおけるソフトウェアの活用を考える学習活動により，ソフトウェアの意義と重要性を理解する。 ●社会で利用されている情報システムの例や，ビジネスにおけるソフトウェアの活用の実例を学ぶことにより，情報通信ビジネスにおけるソフトウェア活用の重要性を理解する。 ●ソフトウェアの進化が，社会の変化に与える影響を考える学習活動により，関連する知識を身に付ける。 ●Society5.0 が実現しようとしている社会について考察し，ソフトウェアの活用例と目的を理解する。	a:ビジネスにおけるソフトウェアの活用について理解しているとともに,関連する知識を身に付けている。 b:ビジネスにおけるソフトウェアの活用と目的について認識し,企業活動と関連付けて考え判断し表現できている。 c:ビジネスにおけるソフトウェアの活用と進化について,自ら学び,主体的かつ協働的に取り組んでいる。	定期考査 （実技テスト） 小テスト 単元テスト 課題の提出 授業態度の観察	定期考査 （実技テスト） 小テスト 単元テスト 課題の提出 授業態度の観察	学習状況の観察 授業態度の観察 自己評価
	情報通信ネットワークの活用	●ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し，それを活用するコンピュータやプリンタを LAN やインターネットに接続するための基礎的な方法や，情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術を身に付ける。 ●情報資産を保護するため，ソフトウェアの脆弱性への対応や，無停電電源装置の活用などのリスクを適切に管理する方法について理解するとともに，情報を共有するためのファイルとフォルダのアクセス権の設定や，暗号化の種類，データのバックアップなどについての基本的な技術を身に付ける。	a:ネットワークの構成に必要なハードウェア，ソフトウェアと，その設定に関連する知識と技術を身に付けている。 b:ネットワーク構築に必要なハードウェア,ソフトウェアを適切に選択でき,適切な判断に基づくデータの保護やセキュリティ管理の基準を表現できている。 c:ネットワーク構築に必要なハードウェア,ソフトウェアについて,積極的に理解や実習に取り組み,データの保護やセキュリティ管理の基準を身につけようと主体的かつ協働的に取り組んでいる。	定期考査 小テスト 単元テスト 課題の提出 授業態度の観察	定期考査 小テスト 単元テスト 課題の提出 授業態度の観察	学習状況の観察 授業態度の観察 自己評価
	表計算ソフトウェアの活用	●表計算ソフトウェアを通して，情報の集計と分析について理解し，様々な集計や分析方法,集計した情報から，分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。 ●表計算ソフトウェアを通して，オペレーションズ・リサーチの基礎を理解し，目的に応じて適切な手法を活用する技術を身に付ける。 ●マクロの記録機能を用いて，手続きの自動化の考え方を理解し，基本的な技術を身に付ける。	a:財務情報や販売情報の分析方法,活用に関連する技術を身に付けている。マクロ機能を用いた手続きの自動化についての知識と技術を身に付けている。 b:財務情報や販売情報の分析結果から,企業の財政状態や経営成績，販売動向などを判断でき，表計算ソフトウェアを活用して分析結果を的確に表現できている。 c:財務情報や販売情報に関心を持ち,表計算ソフトウェアの機能を利用した分析実習に積極的に取り組み，自ら進んで知識・技術を身に付けようと主体的かつ協働的に取り組んでいる。	定期考査 小テスト 単元テスト 課題の提出 授業態度の観察	定期考査 小テスト 単元テスト 課題の提出 授業態度の観察	学習状況の観察 授業態度の観察 自己評価

※令和４年度以降入学生用

2学期	データベースソフトウェアの活用	●データベースの特徴や基本的な機能を理解する。 ●データベースソフトウェアを活用するための知識と技術について理解する。 ●フォームを用い，手続きを登録する方法を理解する。 ●データベースの構造を理解する。また，表を正規化するための手順を理解する。 ●ＳＱＬを用いた汎用的なデータベースの操作方法について理解する。	a:データベースの役割と仕組み，構造やリレーションシップの意味を理解している。テーブル・クエリ・フォーム・レポートの機能と関連について，SQL の文法を理解した上で操作の技術を身に付けている。 b:業務の特性に合わせて，データベースの効果的な活用方法を判断でき，処理の内容によってマクロ機能や SQL を適切に使い分けることができている。 c:ビジネスにおけるデータベースの活用に関心を持ち，知識・技術を積極的に身に付けようと主体的かつ協働的に取り組んでいる。	定期考査 小テスト 単元テスト 課題の提出 授業態度の観察	定期考査 小テスト 単元テスト 課題の提出 授業態度の観察	学習状況の観察 授業態度の観察 自己評価
	業務処理用ソフトウェアの活用	●グループウェアを活用することの利点と，グループウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。 ●販売管理ソフトウェアを活用することの利点と，販売管理ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。 ●給与計算ソフトウェアを活用することの利点と，給与計算ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。	a:グループウェア・販売管理・給与管理などのソフトウェアについて，そのしくみや活用のメリットを理解し，適切に活用する知識・技術を身に付けている。 b:ビジネスにおける情報の一元管理や情報の共有の重要性を理解した上で，適切な業務処理ソフトウェアを選択して，効率的な活用を判断することができている。 c:ビジネスにおける情報の一元管理や情報の共有の重要性を理解した上で，適切な業務処理ソフトウェアを選択して，効率的な活用を思考することに，主体的かつ協働的に取り組んでいる。	定期考査 小テスト 単元テスト 課題の提出 授業態度の観察	定期考査 小テスト 単元テスト 課題の提出 授業態度の観察	学習状況の観察 授業態度の観察 自己評価
3学期	情報システムの開発	●情報システムの開発に関する基礎的な知識，技術について実務に即して理解するとともに，表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発と関連付けて理解を深める。 ●情報システムの開発の中でのプログラミングにおいて，コンピュータに指示を出すための手順であるアルゴリズムについての基礎的な技術や，プログラミングに必要な関連する知識，技術を身に付ける。 ●表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアのプログラミング機能を利用した簡易な情報システムの開発を通して，企業活動の改善を科学的な根拠に基づいて，主体的かつ協働的に取り組む姿勢を身に付ける。	a:システム開発における代表的な開発モデルと開発手法について，基礎的な知識・技術を習得している。アルゴリズムの基本を習得し応用的な活用技術を身に付けている。 c:システムの開発の手順や開発モデルを理解し，各手順の目的や開発の内容を適切に説明できている。データ処理の目的に応じた処理を自ら考え，アルゴリズムなどに表現することができている。 c:システムの開発に興味を持ち，その設計や作成の方法を積極的に学んでいる。ソフトウェアの特色を生かした実習に積極的に取り組み，主体的かつ協働的に取り組んでいる。	定期考査 小テスト 単元テスト 課題の提出 授業態度の観察	定期考査 小テスト 単元テスト 課題の提出 授業態度の観察	学習状況の観察 授業態度の観察 自己評価

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度